

東北のあつ時報

行發日廿十日一回三月毎
 吉梅越堀行發會編
 一卅目丁一町平縣島福
 社報時工商北東 所行發
 圖一金行一 料告廣
 錢卅月ケ一 錢十金 部一
 圖三共稅郵年ケ一

局支社本
 石城郡小名濱町
 双葉郡富岡町
 相馬郡原町
 信夫郡飯坂町
 東白河郡棚倉町
 東京市足立區本木

TAIRA
 TELEPHONE
 9

危険極まる

合法的手段により

細民の膏血迄て絞る インチキ會社に注意せよ

石川や濱の眞砂と云ふこと酒色の資となつて飛んで終つてあるものゝ如くは古來より言ひ傳へられてゐるのであるが此の事實は過あるが斯るインチキ會社が起るが殆ど泥棒にも等しい般仙臺警察署、平警察署に出現したる場合一般人は必き行爲により良民より金銭検査を見たる罪証によつてその奸手段に乗る處なくを詐取しつゝある會社よ見ても明かなる事實である注意を怠らざる事に留意するものが多々見受けられ居る事には實に社會のため人道常に光つて居るのである。

彼れボロ會社の内容に至つて見るに、彼れ等の常套手段としてデク人形様の飾物を社長に押立つるか或は裏長屋に陀住する營養不良で死にかけたような者を利用しそろ／＼と魔の手を延ばす段取りをする。第一の段取りなるや第二の策として廣告宣傳をなす第三の策として社の内容を嗅き知つて集る不良外務員をして從横左右に甘言を並立てさせ金を捲上げるのである。而して良民をゴマ化して上たる金の多くは彼れ等の

花の松ヶ岡公園

珍らしく多量に降つた十ナント云つても東北地方であるからである。敏才とは有名なる小名濱校長の第一次者であつた會社としての本分に全生しつゝ、先生の頌徳像は絶へず同氏父であり慈善家として區民の父である。木澤區長の立場に波紋を描かうとする悪徳者ありために温順な區長も念激の極一會の事區長を止めようとしたのであつた。同氏の辭任を惜み留任を切望してゐると云ふ話であるが「マサカ選舉當時の怨みで區長に難癖をつける次第でも

第二の會田校長として 教育界に輝く

小名濱小學校長 西山直三郎氏

西山校長の名聲は今や餘るる小名濱何千の兒童は氏りにも知られてゐる。それは慈父と慕ひ教養全行は云ふ迄もなく同君が教育者軌範校として輝く故會田としての本分に全生しつゝ、先生の頌徳像は絶へず同氏父であり慈善家として區民の父である。木澤區長の立場に波紋を描かうとする悪徳者ありために温順な區長も念激の極一會の事區長を止めようとしたのであつた。同氏の辭任を惜み留任を切望してゐると云ふ話であるが「マサカ選舉當時の怨みで區長に難癖をつける次第でも

と亦々仙臺市あたりでニコないだらうナ
 /と云ふ名義で頗る其の筋の手数をかけてゐる輩らが今度中へ魔手を延ばして仙臺の穴埋めに非常手段を用へてゐる由であるが命から二番目の金を出したものでよく／＼本社の内容を調べてから積み立て、も遅くない筈である。用心が肝要々々
 ◎某新聞紙上井上氏が法廷に心配そうに顛うなれたる眞眞版がのつて居た果して氏のために掲載したものかそれとも故意に宛れたにせよ年既に六十路を越へた人でもあり平町のために随分と爲めに悩まされた人である落ぶれて袖に涙のかゝる時の一句位は記者君としても味はつて欲しいもの今無罪となつた氏の顔をまともに見得らるゝ趣下
 どうだらう讀者諸君記者は絶対に井上氏とは親交を持たぬ見地からして書く理ではある——が!!!
 ◎古銀治區長として區民の父であり慈善家として週知されてゐる。木澤區長の立場に波紋を描かうとする悪徳者ありために温順な區長も念激の極一會の事區長を止めようとしたのであつた。同氏の辭任を惜み留任を切望してゐると云ふ話であるが「マサカ選舉當時の怨みで區長に難癖をつける次第でも

東北化學工業所の
 工業所の
 將來望待する
 福島縣石城郡平町北目町に常磐地方に於ける化學事業工場として唯一を誇る東北化學工業所は時代に適應せる進化的營業である所以により逐年その繁榮を高めつゝあるが、主とする同工場製品の
 ◎二硫化炭素
 ◎石灰黃合劑
 ◎硫黃華
 ◎沈澱硫黃
 ◎四鹽化炭素
 ◎硫化カリウム
 ◎難舍消毒劑(最新藥)
 等々宛れも至極化學合法による有劑のみの製品を製作しつゝあるので従つて重用品としての販路に富んでゐるが其の製品中ピースコー式ニリカ炭素は人絹物の主要原料として尙亦セロハン紙原料として重宝されてゐる。

大黒屋商店
 平町三丁目
 電話一六六番

天地 カフェー
 は田町通りへ
 開店いたしました
 召上りものはうまく
 美人揃へです

畜腦症 特效藥
 快鼻湯
 平町一丁目
 發賣元 水野藥局
 「施術せよとも
 のんでよく治る」
 花見の御宴會と御遊びは
 花の真中に在る家
 とときわ
 松ヶ岡公園地内
 電話二二六番

分草の戸江
 酒白
 前 驛 平
 店 酒 嵐 十 五



原蠶種製造所

最も天然的气候風土に

恵まれてゐる

原町が有望の候補地なりとして

石川氏甫め町有志が

待望の内に猛運動に着手

原蠶種製造所管理による農産物結集は製造上の適否と
 林省蠶種製造所の設置ヶ所建築費に含まれる地價の問
 についで本縣と山形縣で題算等が睨み合はされ併
 争奪戦が行はれてゐるが更けて氣候風土の最適地が根
 に縣内でも早くも争奪が行本條件となるのである。

はれ過般糸賀飯坂町長は町原町の如く蠶種上に合適
 有志二氏と共に秘かに上京の土地と併せて石川氏の如
 するありて農林省に井野蠶種私財を投して迄もと氣沖
 糸局長を訪ひ懇請した農林省にある人物もあり町有志
 省の意向は九年度では四十全休が原町振興の第一策と
 九萬六千圓づゝ支出して建して意氣込んでゐる關係上
 築を完成し同時に全國的管最も有望視せられて居る
 理を完了する豫定になつて傳へられてゐる。

居り着手の方法は全國四ヶ
 所一ヶ所づゝを漸次完成し
 て行くが目下決定して居ら
 ず設置ヶ所に關しても製上
 の適地なりや、否やは現在
 蠶業試験場各地に人を流
 して調査中であり調査を終
 つて報告を受けた後本省
 として該報告に基いて再
 調査をなすいよいよ最後の
 決定を見ることとなるので
 果して現在蠶業試験場が福
 島に在るからと云ふても全
 半谷氏が趣味によつて植樹
 地が最適地であるとは斷じ
 された名花といふ名花何百
 騎、延元元年三月十五日吉
 刻より双方合戦に及び未の

東北の名花

夜の森の櫻

廿五六日頃が盛り

常磐線夜の森驛下車約二
 丁の處に宏莫たる半谷農場
 がある此所に十數年前時の
 産工門尉廣楡肥後守に乞ひ
 先鋒承り相馬胤平の伊達行
 に寄らしむ。

南朝の忠臣史蹟 (二)

佐藤五郎氏寄稿

靈山の最も強敵と目し怖
 れをなしたる相馬なり相馬
 一族擧て勇猛の將卒多く是
 迄幾度かの合戦皇軍敗軍敗
 野堂館に御休相馬胤平は
 嗣す、殊に相馬は天險を得
 たる地勢にあり靈山より
 攻むるに容易ならざるなり
 然るに此度當標葉靈山に歸
 順し次で相馬一族中武勇絶
 倫の稱ありし相馬六郎左工
 門尉胤平手兵二百餘を率ひ
 皇軍に降り忠を致す此所於
 て腹背皆敵を受け獨り孤立
 となり之に反し皇軍大に振
 大に振ふ。

刻に抵るも末だ勝敗なし敵
 味方の死傷壘を爲す、而城
 兵衆寡敵せず相馬孫次郎親
 胤全彌五郎重胤全令弟彌次
 郎光胤全七郎胤治全十郎胤
 俊始め一族生存者なく皆討
 死廿四日城遂に陥る。

治の御代の初まで祖先の
 功は此旗と赫々として傳
 りしなり。

富岡消防組員の美舉

富岡消防組員

双葉郡富岡消防組は縣下
 に於ても優良組として知ら
 れてゐるが去る本月二日よ
 り同町學校講堂建設敷地工
 事に努力奉仕を申合せ大原
 組頭が熱心なる指揮のもと
 に二百餘名出動で活動をし
 てゐるので感激されてゐる

相馬郡の二歳駒糶日割

相馬郡

二十三日金房、山上、大
 野、二十四日眞野、飲會
 津島、石神、太田の順に原
 町で施行される。

相馬郡大壘村區長決定

大壘村區長過般左の如く
 決定した

- 第一區長 長田 寛
- 第二區長 星 清治

第三區長 高橋 七藏
 第四區長 松岡 隆
 第五區長 高野 寅雄
 第六區長 草野 弘毅
 第七區長 大迫 弘
 第八區長 新田 四郎
 第九區長 栗崎 豊治
 第十區長 江井 又治郎
 第十一區長 田淵 市治
 第十二區長 畑島 兼五郎
 第十三區長 益山 孝藏

夜の森驛前
 丸一旅館
 夜の森驛前
 るびす屋
 旅館
 夜の森驛前
 村井商店
 酒醬油味噌
 菓子日用品雜貨
 小林商店
 夜の森驛前
 大野驛前
 旅館カフエー
 吞喜亭
 魚問屋
 泉新助
 夜の森驛前
 富岡町
 中野屋旅館
 仙臺屋
 靴店
 平町搔植小路

社告

近來本社名を巧妙に利
 用し金圓を收受し歩る
 者を聞知せるも同業者の
 關係上今限り認默する
 こととするも將來再び本
 社名を利用したる場合は
 相當なる所置に出つべく
 一應全人の良心を喚起し
 反省を促し置く

常磐線平町
 昭和活版所

小名濱版

小名濱支局 開設挨拶

社長 堀越梅吉

小名濱町が

魚市場と火葬場

との建築案成る

小名濱町は近き將來に於て繁榮を極むる商港場として而かも世界的に名知せらるゝ待望の地である事、確然的なる周知の事實である。而して之の小名濱の將來發展の礎は要するに町民諸氏の堅志による協同一致町愛の進りが茲に至つたものであると云はねばならない。それは現在に至る迄の町民全体の行動が全般を遺憾なく物語つてゐる筈である。而已ならず町は擧げて益々臍を固めて以て將來に善所せんとしてゐるのである。此の小名濱隆興途上に當り余は小名濱町を誕生の地として親みを最有する意義に於て而かも町愛に生所する點に於て決して人後に落つるものではない事を斷言すると共に尙進んで新聞紙の眞使命を完全に益用し小名濱町のため身筆を挺して善處せんとする懐心より支局開設を實現したる所以に外ならないのである。

新くして町民諸氏と共に携提して町發展と町民福祉のために奮つて益共んせとする微志を享受せらん事を切望する次第である。

東北商工時報社

望する次第である。

東北商工時報社

社長 堀越梅吉

小名濱町が

魚市場と火葬場

との建築案成る

小名濱町魚市場が町營になつたことは既報の通りであり、亦火葬場設置の件も決定を見、過般の町會に於て經費一萬圓を以て本年七月中に建築の運びになつた。

アグリ網の

元祖と

恩惠的人物

漁業者が擧げてアグリ網使用により恩澤を蒙つてゐる事は今更ら事新らしく記載する迄もない事であるが此の恩惠に浴する使用者全般に對し此の網の發明者であり恩人であるべき千本松喜助氏の名を紹介する喜助氏は千葉縣九十九里海岸に漁業を營んでゐたが何んとかして豊富に漁獲する方法を發明すべく熱心に研究中風人格其のまゝの人としてゐる現在浪江神社に奉納されし之れにのみ没頭したる結果平町に於ける重人物として、徳望を擔つてゐるが、同氏と、萬葉盡きて血涙の深恩より得たる史蹟を次號より

に浸つてしまつた、此の時つたのであるが、同氏等の同氏が永年船子として使用苦心された事の恩澤を知つた使用人が健氣にも有る者は同氏等に報するため願ふたの物資を同氏へ提供し徳碑位を建設すべきが人倫たのによつて目的を貫徹しの本來であると協議を重ねたに初まり今日に及んで居つゝある由である。

小名濱三業組合 役員決定

役員決定

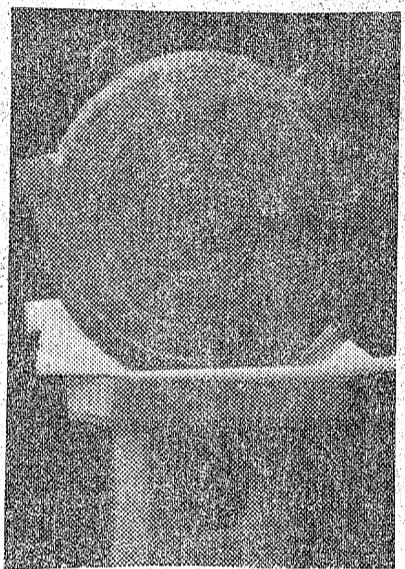
小名濱三業組合では此の組合長相澤寅松、副組合長上遠野航、會計坂本庄吉、衛生係大澤彦

南朝の忠臣を

祖先に持つ

齋藤敏實氏

石城郡平町田町住、齋藤掲載し以て史家の参考と敏實氏は建武中興の忠臣をすることにした、此記事の祖先に持つ名門家として世中央に掲ぐる寫眞は而も々浪江神官として知らるゝ世容易に得られざる古昔の



浪江神社前之ニテチ 齋藤敏實の家實物

ころなるが、氏は祖先の遺遺物として頗る尊重されてを發明すべく熱心に研究中風人格其のまゝの人としてゐる現在浪江神社に奉納されし之れにのみ没頭したる結果平町に於ける重人物として、徳望を擔つてゐるが、同氏と、萬葉盡きて血涙の深恩より得たる史蹟を次號より

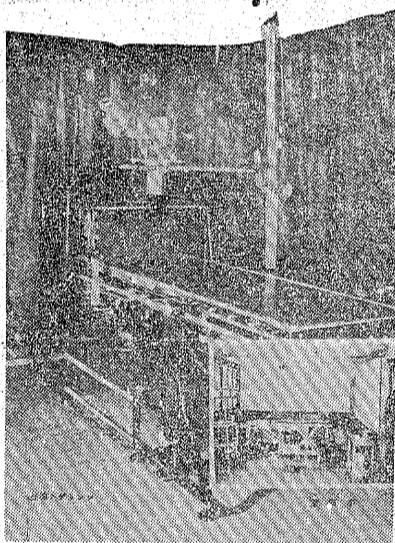
諸橋鐵彌博士の

美學を見る

記者は會つて過ぐる月平面持ちて出て來たのであつた新川町に諸橋醫院を訪れたが同氏の厚い親情に時だつた恰度その時に足部同人は涙を流して立ち去つた全體に腫物の腐亂したボロボロの行爲が如何にも神々々の衣類を纏ふた乞食ともしき迄に追想されて目前に云いたい卅歳餘の男が苦し彷彿たるものがある。斯く



諸橋外科醫院全景



諸橋醫院 玄関設置室

野村醫院開業

地方民良醫を迎ひて大喜び

田村郡瀧根村神俣に此のりなく醫學の蘊奥を極るに程開院した野村智退氏は千及び地方民の嚮望する所に葉縣弟隅郡上濕村出身で明任せ本縣植田町に開業した治二十二年生れの油の乗り當事氏の徳望と識力とによつて門前常に市をなしてゐ切つた働き盛りである。氏は青年時代に醫學に志したが後福島炭礦の迎ふる處を東都に負ひ博士諸大家となり愈々氏の令名を知らの門を叩き醫學と實地とのるゝに至つた。立派な醫士研究に努め遂に志を得て弱たるの總意を備えた人格者冠にして醫士となるに及ぶのである。今回の開業に當つても尙新進氣鋭に富む君はても氏に接した悉くの人は以つて足れりとせ本研究を期せし博識なるを知り重ねるべく横濱病院三井慈良醫を迎ひた喜びに浸るこ善病院等に歴務し研究に怠ることが出来るであらう。



野村氏

祝小名濱支局開設

福來總十郎

中山琢三

竹村智蓮

西山直三郎

飯塚榮一郎

水野ヒロ

小磯元藏

小名濱支局開設
福來總十郎
中山琢三
竹村智蓮
西山直三郎
飯塚榮一郎
水野ヒロ
小磯元藏

祝小名濱支局開設

小名濱町長 小野 晋平
 助役 高木 保
 収入役 樋口 速
 黒澤 島雄
 小名濱町會議員(順不同)
 立花 雄七
 小松重兵衛
 近藤 安雄
 江尻甚太郎
 小濱長太郎
 村上淨代二
 岡山 重喜
 國井 忠太
 西丸 猛
 福尾伊太郎
 高木 惣治
 堀越 定吉
 飯塚藤石工門
 吉田龜之助
 野崎亟之助
 佐川榮太郎
 藤社 重吉
 伊藤經太郎

平製水小名濱工場長
馬目 安一

小名濱町學務員(順不同) 水産會社支配人
 小野 長松
 小島 源七
 内山 伊吉
 松原 正巳
 後田由之助
 鈴木 榮
 丹 清治
 馬 上德十郎
 藤社 大一
 齋藤定次郎
 鈴木富太郎
 松本徳次郎
 立花 秀吉
 水野 順弘
 草野良太郎
 野崎長次郎
 中野鐵之助
 小名川 兼雄
 志賀 要平

優良ゴム靴製品
草履製造元
小島履物店

仕立正確迅速
馬上洋服店
 親切で勉強な店
富久屋洋品店
 和洋酒雜詰雜貨
山本屋商店
 牛豚肉問屋
長瀬 肉店
 藥品化粧品
小磯自動車部
 特約店 一條藥店
 銘酒「由良之助」
鈴木雄作酒店
 お頭味噌特約店
加藤屋商店
 荒物雜貨
長瀬印刷所
 長瀬 芳郎

丸八鐵工場

吉野屋吳服店
 精米所
鈴木 商店
 正眞勉強店
佐藤米穀店
 内外果實
松屋食料店
 和洋酒雜貨
樋口吳服店
 中川 酸素
工業所
 味噌醬油食料品
會津屋酒店
 鹽醬油酒新炭
比佐庄二商店
 銘酒「長生」
磐崎屋本店

西野屋
自轉車店

創製製造元
馬上與八商店
 和洋酒雜詰
草野 商店
 こがね屋號
野口信吉
 金物商
御代 商店
 銘酒「香久山」「花春」
中屋 酒店
 小名濱町 電話二五一番
小野倉之助
文屋 商店

貨切の御用は
馬目タクシー

柴田彦次郎商店
 小名濱町 磐城座
 皆様の店
大一屋商店
 茶、砂糖、荒物
文助丸一屋商店
 美術寫眞
尾城寫眞館
 資生堂藥局
 野木兄弟
自轉車商會
 料理館
新 米
 小名濱信用販賣利用組合
 磐城水産工業株式會社
 小名濱町 清水屋本店
 小名濱町 藝妓屋組合
 小名濱町 料理屋組合
 小名濱三業保健組合
 土木建築請負業太田勝康

白石藥局

化粧品藥品
寶屋 商店
 中村 醫院
 久保田醫院
 佐瀨 醫院
 宮津 醫院
 木田齒科醫院
 門馬齒科醫院
 小松齒科醫院
 中野 政治
 小名濱町 齒科醫院主